

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2003-522817(P2003-522817A)

【公表日】平成15年7月29日(2003.7.29)

【出願番号】特願2000-511821(P2000-511821)

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/00 (2006.01)

C 0 9 D 5/02 (2006.01)

C 0 9 D 201/00 (2006.01)

C 0 8 L 79/02 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 101/00

C 0 8 K 5/00

C 0 9 D 5/02

C 0 9 D 201/00

C 0 8 L 79:02

【手続補正書】

【提出日】平成17年8月29日(2005.8.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 アセトアセトキシポリマー；ポリ(アルキレンイミン)及び芳香族燐酸エステル界面活性剤を含んでなる安定な水性ポリマー組成物。

【請求項2】 前記ポリマーがアセトアセトキシ型官能性を有するビニルモノマー 0.5 ~ 30重量%と別のビニルモノマー 99.5 ~ 70重量%との反応生成物を含んでなる請求項1に記載の安定な水性ポリマー組成物。

【請求項3】 アセトアセトキシ型官能性を有する前記ビニルモノマーが、アセトアセトキシエチルメタクリレート、アセトアセトキシエチルアクリレート、アセトアセトキシ(メチル)エチルアクリレート、アセトアセトキシプロピルアクリレート、アリルアセトアセテート、アセトアセトアミドエチル(メタ)アクリレート及びアセトアセトキシブチルアクリレートからなる群から選ばれる請求項2に記載の安定な水性ポリマー組成物。

【請求項4】 前記ポリマーがブチルメルカプタン、メルカプトプロピオン酸、2-エチルヘキシルメルカプトプロピオネート、ドデシルメルカプタン、n-ブチルメルカプトプロピオネート、オクチルメルカプタン、イソデシルメルカプタン、オクタデシルメルカプタン、メルカプト酢酸、アリルメルカプトプロピオネート、アリルメルカプトアセテート、クロチルメルカプトプロピオネート及びクロチルメルカプトアセテートからなる群から選ばれた連鎖移動剤を 2重量%以下ならびにトリメチロール-プロパントリ(メタ)アクリレート、1,6-ヘキサジオールジ(メタ)アクリレート及びアリルメタクリレートからなる群から選ばれた架橋剤 2重量%以下を更に含んでなる請求項1に記載の安定な水性ポリマー組成物。

【請求項5】 前記ポリ(アルキレンイミン)がポリマー乾燥重量に基づき 0.5 ~ 2.5重量%の量で存在する請求項1に記載の安定な水性ポリマー組成物。

【請求項6】 前記ポリ(アルキレンイミン)がポリ(エチレンイミン)である請求

項 1 に記載の安定な水性ポリマー組成物。

【請求項 7】 請求項 1 の安定な水性ポリマー組成物ならびに溶剤、顔料、緩衝剤、均展剤、レオロジー剤、硬化剤、流れ調整剤、増量剤、反応性融合助剤、艶消剤、顔料湿潤剤、分散助剤、界面活性剤、紫外線（UV）吸収剤、紫外線安定剤、脱泡剤、消泡剤、沈降防止剤、垂れ防止剤、増粘剤、皮張り防止剤、浮き色防止剤、浮遊防止剤、殺真菌剤、殺カビ剤、腐蝕防止剤、増粘剤、可塑剤、反応性可塑剤、乾燥剤、触媒、架橋剤及び融合助剤から選ばれた少なくとも 1 種の添加剤を含んでなる、建築用被覆、金属用被覆、木材用被覆、プラスチック用被覆、織物用被覆配合物、セメント用被覆、紙用被覆、インキ及び接着剤から選ばれる被覆配合物。

【請求項 8】 アセトアセトキシ官能性を有するビニルモノマーと別のビニルモノマーとを重合させてポリマーを形成し；該ポリマーに、ポリ（アルキレンイミン）、ならびに硫酸化アルキルフェノールエトキシレートのアンモニウム塩、ナトリウムナフタレンスルホネートホルムアルデヒドポリマー、燐酸化オクチルフェノールエトキシレート及び芳香族燐酸エステルからなる群から選ばれた陰イオン界面活性剤を添加し；そして水性ポリマー組成物の pH を 10 未満 に調整することを含んでなる安定な水性ポリマー組成物の製造方法。

【請求項 9】 前記ポリマーがアセトアセトキシ型官能性を有するビニルモノマー 0.5 ~ 30 重量% と別のビニルモノマー 99.5 ~ 70 重量% との反応生成物を含み；前記ポリ（アルキレンイミン）が、ポリマーの乾燥重量に基づき 0.5 ~ 2.5 重量% の量で存在するポリエチレンイミンであり；pH を 7.0 ~ 9.8 の範囲において調節する請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】 前記アセトアセトキシ型官能性を有するビニルモノマーが式（I）

：

$$\text{R}^1 - \text{CH} = \text{C} (\text{R}^2) \text{C} (\text{O}) - \text{X}^1 - \text{X}^2 - \text{X}^3 - \text{C} (\text{O}) - \text{CH}_2 - \text{C} (\text{O}) - \text{R}^3 \quad (\text{I})$$

（式中、 $\text{R}^1$  は水素又はハロゲンであり； $\text{R}^2$  は水素、ハロゲン、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$  アルキルチオ基又は  $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$  アルキル基であり； $\text{R}^3$  は  $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$  アルキル基であり； $\text{X}^1$  及び  $\text{X}^3$  は独立して  $\text{O}$ 、 $\text{S}$  又は式  $-\text{N}(\text{R}')-$ （式中、 $\text{R}'$  は  $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$  アルキル基である）の基であり； $\text{X}^2$  は  $\text{C}_1 \sim \text{C}_{12}$  アルキレン基又は  $\text{C}_3 \sim \text{C}_{12}$  シクロアルキレン基である）のアセトアセトキシ型官能性を有するビニルモノマーである請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】 アセトアセトキシ型官能性を有する前記ビニルモノマーが、アセトアセトキシエチルメタクリレート、アセトアセトキシエチルアクリレート、アセトアセトキシ（メチル）エチルアクリレート、アセトアセトキシプロピルアクリレート、アリルアセトアセテート、アセトアセトアミドエチル（メタ）アクリレート及びアセトアセトキシブチルアクリレートからなる群から選ばれる請求項 9 に記載の方法。

【請求項 12】 前記重合がブチルメルカプタン、メルカプトプロピオン酸、2 - エチルヘキシルメルカプトプロピオネート、ドデシルメルカプタン、n - ブチルメルカプトプロピオネート、オクチルメルカプタン、イソデシルメルカプタン、オクタデシルメルカプタン、メルカプト酢酸、アリルメルカプトプロピオネート、アリルメルカプトアセテート、クロチルメルカプトプロピオネート及びクロチルメルカプトアセテートからなる群から選ばれた連鎖移動剤を 2 重量% 以下並びにトリメチロール - プロパントリ（メタ）アクリレート、1, 6 - ヘキサンジオールジ（メタ）アクリレート及びアリルメタクリレートからなる群から選ばれた架橋剤 2 重量% 以下の存在下に更に行なわれる請求項 8 に記載の方法。